

湘南藤沢学会 シンポジウム・研究ネットワーク基金 成果報告

人間の安全保障学会 第3回年次大会

総合政策学部 梅垣 理郎

概要

人間の安全保障学会（Japan Association of Human Security Studies）は、2011年に組織され、これまで年に1回の割合での年次大会の開催、および、年2回の割合での e-journal *Journal of Human Security Studies* の刊行等の活動を行っている。本学会の特徴としては、①研究発表大会ならびに刊行ジャーナルの公用語を英語としていること；②特に修士課程・後期博士課程に所属する大学院生や留学生を中心とした若手研究者の積極的な参加を呼びかけ、研究成果の公表を促進している点；③年次大会および e-journal は全てインターネット上にて公開し、国内外から常時参照可能な状態としていること、以上3点が挙げられる。今回、第3回年次大会を SFC にて開催し、SFC のネットワーク設備を活かしながら、人間の安全保障という実践的を前提とした研究の進捗状況と成果の評価をインタラクティブな環境での促進を図った。以下に、年次大会の開催概要、および、関連情報へのリンクを記す。

開催日時

2013年9月21日（土）～9月22日（日）

場所

本キャンパス Ω11（主に1日目の特別パネルを開催） K棟、E棟（主に2日目の研究発表を開催）

参加人数 2日間合計で150名前後

開催内容

1日目：学会理事会、総会ならびに特別パネルを3つ開催した。特別パネルは、Opening Panel と Special Session を2つ開催した。Opening Panel では“Toward Best Practices”と題して JICA, NGP/NPO, 大学期間それぞれ各方面からの人間の安全保障に関する実践的な活動・研究成果の報告がなされた。なお、このパネルにおいて、梅垣が“Academics

in Action: Beyond Agent Orange and War Legacy”と題して、過去 10 年ほどベトナム中部およびラオスにて展開している枯葉剤身障児の社会復帰を巡るこれまでの研究成果を報告した。続いて、Special Session 1 では、“Digital Earth for Human Security”と題して、中部大学福井弘道教授（前総合政策学部教授）によるセッションが行なわれ、Special Session 2 では“Human Security and Business”と題して、東京大学佐藤安信教授によるセッションが行なわれた。

2 日目：学会員による研究成果の発表を行なった。発表者 37 名中 26 名が修士ないしは後期博士課程在籍中で、うち 4 名が大学院政策・メディア研究科所属の留学生で、1 名が SFC 研究所所属の上席所員（訪問）であった。また、12 の研究発表パネルのうち 1 つは、政策・メディア研究科博士取得の蟹江憲史氏（現在東京工大准教授）によるセッションが行なわれた。なお、当日は、事前にプログラムおよび各発表の概要をまとめたブックレットを作成し、会場来場者へ配布した。

その他、開催概要等の情報は、大会のホームページを参照されたい

<http://www.janp.sfc.keio.ac.jp/JAHSS/ac2013/ac2013.html>

最後に、湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」からの支援で、年次大会の運営を滞り無く終了することができた。ここに、謝辞を申し上げます

以 上